

西大滝ダム減水区間における 平成28年度モニタリング調査計画（案）

平成28年3月10日

西大滝ダム下流水環境調査検討会

1. H21～H26年度モニタリング調査項目

- ・提言後（H21.3）は、信濃川中流域減水区間において、河川を適切に整備・管理し、**望ましい環境を確保するためのモニタリング調査**を、継続実施
- ・第26回信濃川中流域水環境改善検討協議会(H27.3)において、西大滝ダム減水区間におけるモニタリング項目については、河川水温、魚類の生息及び遡上降下（魚類の生息・生育状況、サケ遡上）に決定

西大滝ダム減水区間におけるモニタリング調査（H21年度以降の調査）

項目		選定	調査を実施する又は実施しない理由
河川水質		×	河川流量と明確な関係が見られないため、調査対象外。
河川水温		○	減水による著しい水温上昇は見られないが、減水区間の水温の縦断変化を確認するため、調査実施。
河川形態		×	減水による面積変化が見られないため、調査対象外。
河川景観		×	放流量が8m ³ /s以上であれば望ましい景観が確認されているため、調査対象外。
魚類の 生息及 び遡上 降下	生息・ 生育状況	○	現状の魚類相を確認するため、調査実施。
	滞筋	○	最低限確保すべき流量20m ³ /sは、サケ・サクラマスなど魚類の移動に必要な滞筋（水深30cm以上、水面幅13.5m）を確保することが根拠となっている。西大滝ダム放流量が20m ³ /sの場合の現地状況を確認するため、H21年度に調査実施。それ以降は調査対象外。
	サケ遡上	○	サケの遡上状況を把握するため調査実施。
付着藻類		×	異常繁茂した付着藻類の現存量も少なく、減水による影響が見られないため、調査対象外。
底生動物		×	河川流量と明確な関係が認められないため、調査対象外。

○：調査する，×：調査しない

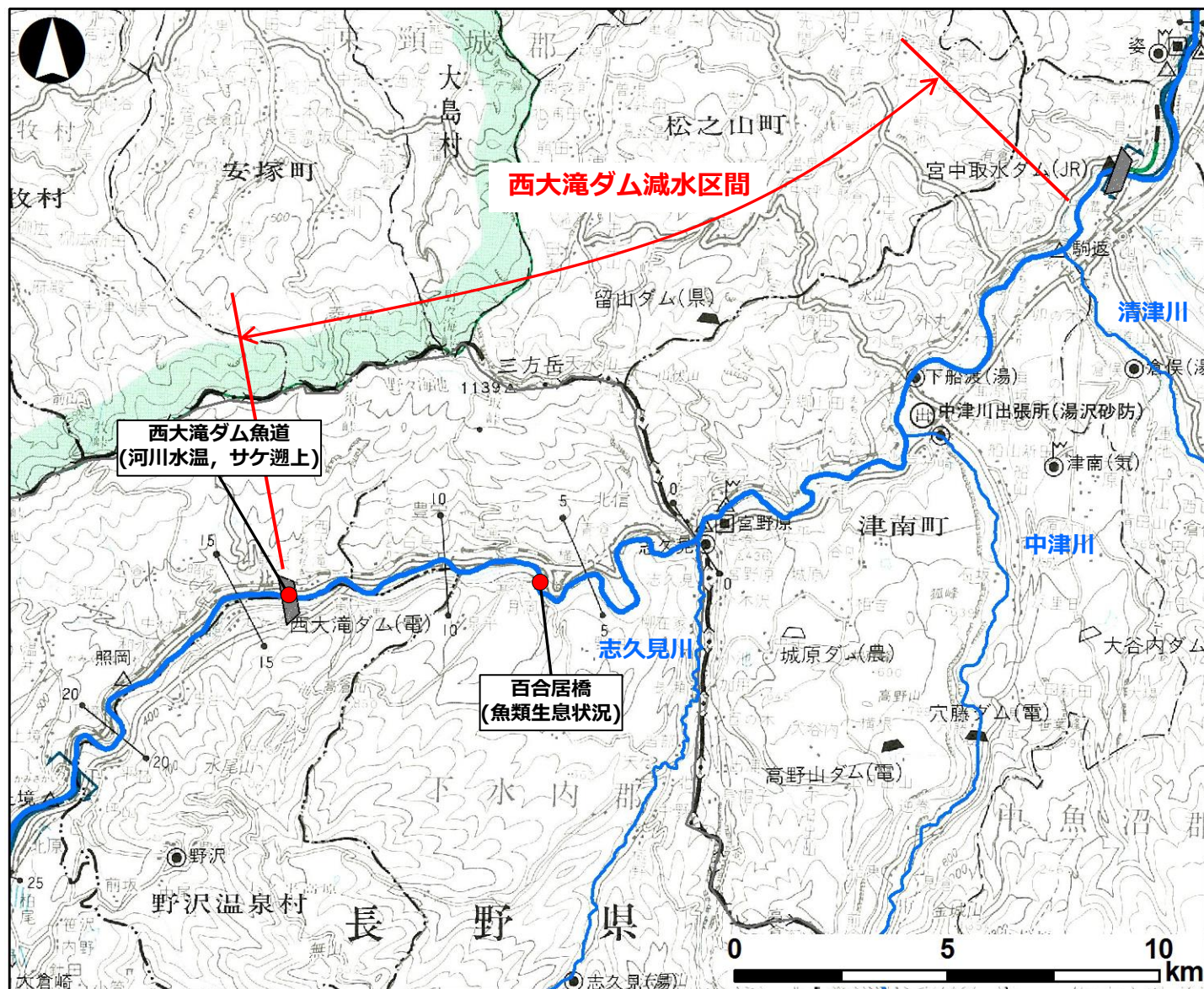
2. 平成28年度モニタリング調査計画（案）

平成28年度モニタリング調査計画（案）

調査項目		調査内容	
河川水温		調査地点	西大滝ダム魚道
		調査方法	夏季高水温期(7/26～9/5)に、自動水温計測器により10分間隔で計測
魚類の 生息及 び遡上 降下	生息・ 生育状況	調査地点	百合居橋
		調査方法	春季・夏季・秋季に、河川水辺の国勢調査の魚類調査に準じて実施
	サケ遡上	調査地点	西大滝ダム魚道
		調査方法	サケ遡上期（9/11～11/10）に、魚道にトラップを仕掛け、魚道を遡上するサケを捕獲

※第26回信濃川中流域水環境改善検討協議会(H27.3)によって決定された調査計画と同じ調査内容です。

3. 平成28年度モニタリング調査計画案の調査地点



4. 河川水温の調査方法

過年度調査と同様の手法で実施する。

調査地点である西大滝ダム魚道内に自記式水温計を設置し、河川水温の連続観測を実施する。

計測期間：夏季の高水温期
(7月26日～9月5日)

データ取得間隔：10分



自記式水温計

- ・ オンセット社製データロガー
ティドビットv2
- ・ 精度： $\pm 0.2^{\circ}\text{C}$ ($0^{\circ}\text{C} \sim 50^{\circ}\text{C}$)



水温計設置予定箇所



5. 魚類の生息・生育状況の調査方法

過年度調査と同様の手法で実施する。

調査地点の早瀬及び平瀬、淵、ワンドの分布状況から代表地点を設定し、投網、タモ網、定置網、刺し網、はえ縄を用いて魚類の捕獲を実施する。

捕獲した魚類は、種名、全長、体長、個体数等を記録する。

調査時期：

春季，夏季，秋季

1調査地点・1季当りの調査数量

漁法	調査数量
投網12mm	40回(4環境※×10回)
投網18mm	40回(4環境※×10回)
タモ網	240分/人(4環境※×60分/人)
定置網	2ヶ続
刺し網	2ヶ続
はえ縄	4本(4環境※×1本、はえ縄1本に釣り針5本)
どう	8個

※4環境：早瀬、平瀬、淵、ワンドの分布状況から4つの代表箇所を設定



6. サケ遡上の調査方法

過年度調査と同様の手法で実施する。
西大滝ダム魚道においてトラップによる捕獲を実施する。

調査期間：サケ遡上期
(9月11日～11月10日)

